

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)
高山地区

平成22年10月

大阪府豊能町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名	豊能町		地区名	高山地区			面積	180ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	456.1百万円	国费率	0.41				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	①道路(町道向町2号線) ②既存建造物活用事業(旧高山小学校)									
			提案事業	①事業活用調査:旧高山小学校活用事業 ②まちづくり活動推進事業:真菜まつり推進事業									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	高質空間形成施設(親水空間整備)			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	なし			-			-			
	新たに追加した事業		基幹事業	道路(町道サワノクボ線、町道南町線、町道向町1号線、町道向町3号線)			本事業において、狭隘道路の拡幅部を連続させるための事業として整備路線を追加した			想定していた他事業が取りやめになったことから、本事業による道路整備として対象路線を設定し数値目標を見直した。			
			提案事業	地域生活基盤施設(有効消火栓改良事業)			防災性向上のため、事業を追加する			消火栓整備は防災性の向上に寄与するため、指標として消防水利充足率を追加した			
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	地区来訪者数	人/年	450	平成16年度	700	平成22年度	H21	923	○	あり	交流拠点として整備された旧高山小学校におけるイベント開催等の活用が地区来訪者数の増加に寄与していると考えられる。	平成23年3月31日
	指標2	狭隘道路率	%	68.8	平成16年度	35.9	平成22年度	-	35.9	○	あり	地区住民の理解及び役員の協力により、必要な用地買収の完了の目途が立ち、期間内に狭隘道路の拡幅整備による一定幅以上の道路網が形成され、地区の安全性が向上すると考えられる。	平成23年6月1日
指標3	消防水利充足率	%	50.0	平成16年度	70.0	平成22年度	-	70	○	あり	道路拡幅と連動することで、期間内に消火栓の整備を行うことができ、地区のほとんどが有効範囲内にくまなく地区の安全性が向上した。	平成23年6月1日	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
その他の数値指標1		消防活動困難区域率	%	27.5	H16	-	2.0	-	-	-	道路拡幅と消火栓の整備を同時に行えたことが効果発現の要因になった	平成23年6月1日	
その他の数値指標2		緊急車寄付可能住宅(世帯)率	%	34.4	H16	-	75.0	-	-	-	狭隘道路率の改善が住民の日常生活の安全性の向上に直接結びついたと考える。	平成23年6月1日	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 高山コミュニティセンターの活用事業をとおして、地元を主体としたまちづくり活動を継続的に継続していくことにより、今後地区来訪者数の増加に向けた地元の取り組みが活発化することが見込まれる。 高山コミュニティセンターの名称募集を行ったことにより、センターの認知度が高まった 住民が消火栓の設置位置を確認することにより、火災発生時における安心感が向上した 												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		指標1・利用実績によるモニタリング【実施頻度】年1回(通年調査)【実施時期】平成21年度【実施結果】交流活動拠点(旧高山小学校)の利用の実績値を把握することで、事業効果を確認した				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 継続的に地区来訪者数の把握を行っていく。		
	住民参加プロセス		「高山コミュニティセンター運営検討会」との活動連携【実施頻度】21回【実施時期】平成21年4月～22年8月末【実施効果】「高山コミュニティセンター運営検討会」による交流活動拠点(旧高山小学校)におけるイベントの継続的な開催を支援していくことで、来訪者の増加による地区の活性化を意識づけることができた。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地区住民が主体となった活動への移行を進めていく。		
	持続的なまちづくり体制の構築		まちづくり推進協議会運営支援 ・高山地区全体のまちづくり活動の母体となる組織の構築支援 ・まちづくり推進組織の必要性の啓発活動				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 同協議会の設立と運営に関して、行政はオブザーバーとして参加し、連携していく。		

様式2-2 地区の概要

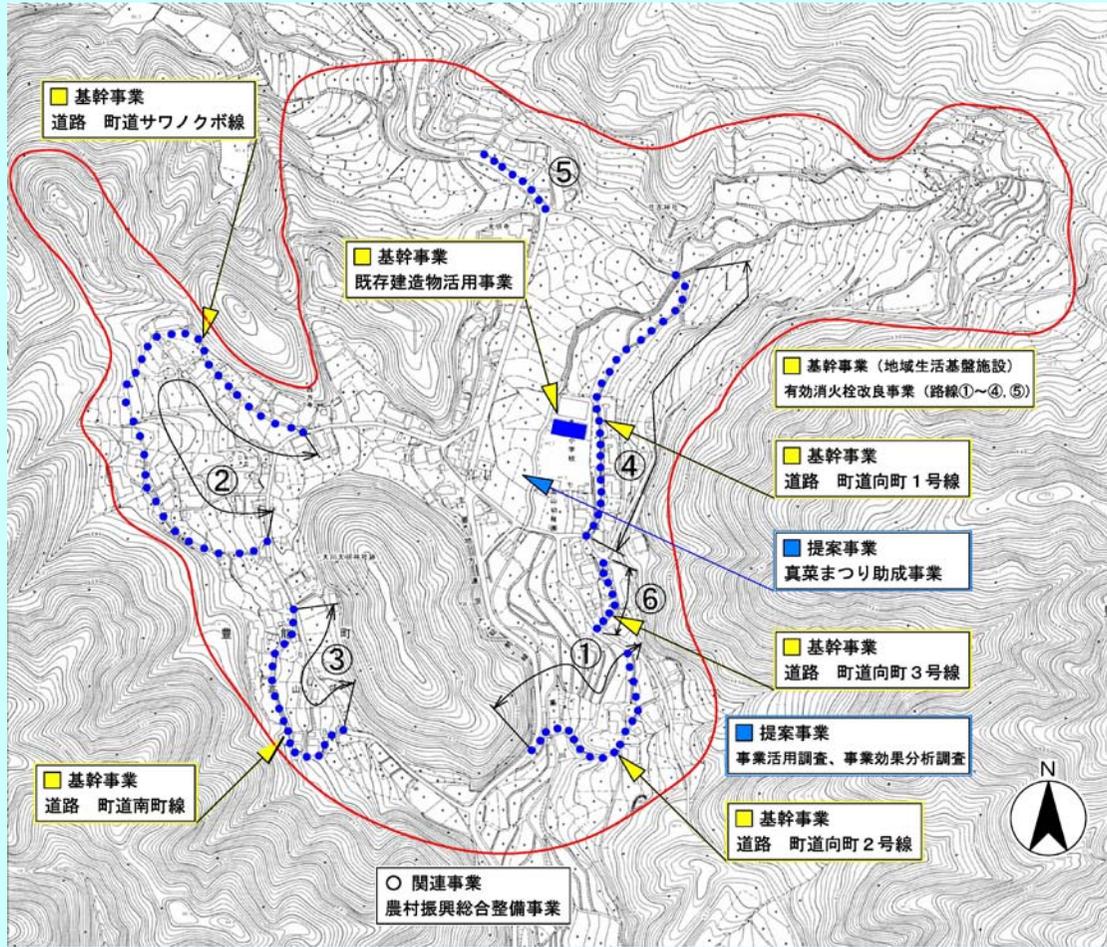
高山地区(大阪府豊能町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
歴史とやすらぎの農村空間の創出 ① 歴史的、文化的資産を活かし、都市と農村との交流促進により観光拠点の創出を行う。 ② 生活環境の改善により、防災性・安全性の向上により快適に暮らせるまちづくりを行う。	地区来訪者数	単位:人/年	450	H16	700	H22	923	H22
	狭隘道路率	単位:%	68.8	H16	35.9	H22	35.9	H22
	消防水利充足率	単位:%	50.0	H16	70.0	H22	70	H22

旧高山小学校活用事業(提案事業)
夏野菜収穫体験とそうめん流し



真菜まつり助成事業(提案事業)
真菜まつりの風景



町道向町2号線整備(基幹事業)



事業前



事業完了後

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 本地区の特性を活かした都市と農村の交流における農村空間の将来像である「歴史とやすらぎの農村空間の創出」に向けた都市と農村との交流が促進され、農産物の交流と都市部住民の参加や協働などのマンパワーを活用した地域の振興に向けた取り組みが始まってきている。 今後は、交流活動の中心となる「高山コミュニティセンター」の持続的な運営に向けて、地区住民やNPO等民間事業者等による管理・運営などの体制(指定管理者になりうる組織)を確立していくことが課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 高山コミュニティセンターの長時間滞在型の利用や宿泊を可能とした利用への活用促進:滞在時間の長時間化を促進するソフトの仕組みづくりを行う。 高山右近に関連する新たな地区の特産物の開発や観光資源の発掘による魅力の向上:「右近の郷」を実現させるため、地区全体で右近にまつわる特産品の開発に取り組む 広域への情報発信:効果を持続的に拡大していくため、町外の都市部に向けた情報発信に取り組む。